

「大正区将来ビジョン2025」の総括

書類番号 2

※大正区第1回区政会議資料抜粋

めざすべき将来像

人や文化が多様性に富み、幅広い世代が支え合いながら共に生きる「ホッとなまち大正」。安全・安心で、こどもの未来が輝き、愛着をもって住み続けられる、持続可能なまちをめざします。また、このまちのポテンシャル(潜在価値)を活かし、新たなにぎわいと魅力を創り出すことにも挑戦します。



めざすべき将来像の総括

めざすべき将来像を実現するために、健康で安心して暮らせるまち「大正」、地域で支えあう安全なまち「大正」、こどもの未来が輝くまち「大正」、にぎわいと魅力あふれるまち「大正」の4つの柱を掲げ、それぞれに対する具体的な施策を推進してまいりました。これらの施策の実施により、着実にめざすべき将来像に近づいていると考えています。

しかしながら、施策毎に見れば、従来の手法では目標を達成できなかったものもあります。今後は改善に向けた取組を続けるとともに、目まぐるしく変化する社会環境のなかで、持続可能なまちとするためには、従来の手法にとらわれない新たな取組にもチャレンジする必要があります。

引き続き、企業を含む区民のみなさんとともに、より良い大正区となるよう努力してまいります。

「大正区将来ビジョン2025」の総括



今後の方針

- 民間主導によるまちのリノベーションにこれまで以上に取り組み、エリアの期待値の向上をめざします。

地域で経済が循環することでより一層まちが活性化するよう、大正区のポテンシャル(潜在価値)を活かして、まちのリノベーションを進め、エリアの期待値を高めます。

そして、夢に向かってチャレンジする区民、地域団体のみなさんをこれまでの行政の慣習にとらわれずに支援します。

- 安全・安心で、こどもの未来が輝き、愛着をもって住み続けられる、持続可能なまちをめざします。

「地域で支えあう安全なまち」、「健康で安心して暮らせるまち」、「こどもの未来が輝くまち」などらしの基本となる施策については、これまでの取組を通じて明らかになった課題等を整理し、(場合によっては大胆に)改善しながら進めます。

「大正区将来ビジョン2025」（こどもの未来が輝くまち）総括

※大正区第1回区政会議資料抜粋

施策	めざすべき将来像	めざすべき将来像の総括
① 安 心 し て 子 育 て で き る 環 境 づ く り	こどもや家庭に寄り添った支援を行い、安心して子育てができる状態	<p>めざすべき将来像の実現に向けて、区内の保育施設等へ積極的なアウトリーチ（訪問支援）を行い、こどもや家庭の状況を把握するとともに、地域資源や関係機関とのネットワークを活用し、適切な支援につなげてきました。また、子育て支援に関する情報発信に積極的に取り組み、関係機関とのネットワークを活用し、乳幼児期から家庭の育児をサポートし安心して子育てができる支援体制の周知に努めてきました。</p> <p>しかしながら現時点でも、子育て中の保護者の孤立感や不安感の増大等といった問題が生じており、また、児童虐待の相談対応件数は、引き続き高い水準で推移しています。</p> <p>このような状況に鑑み、子育てに対して不安や負担を抱える家庭における虐待リスク等を未然に防ぎ、すべての子育て世帯が安心して子育てできる支援体制の充実を進めていく必要があると考えています。</p> <p>また、令和6年度から運営している「こども家庭センター」では、虐待への予防的な関わりから個々の家庭の課題やニーズに応えるために必要な「サポートプラン」を作成し、課題を抱える家庭と共有していますが、より効果的に必要な支援を受けられるよう、これまで以上に関係機関との連携が必要です。</p>

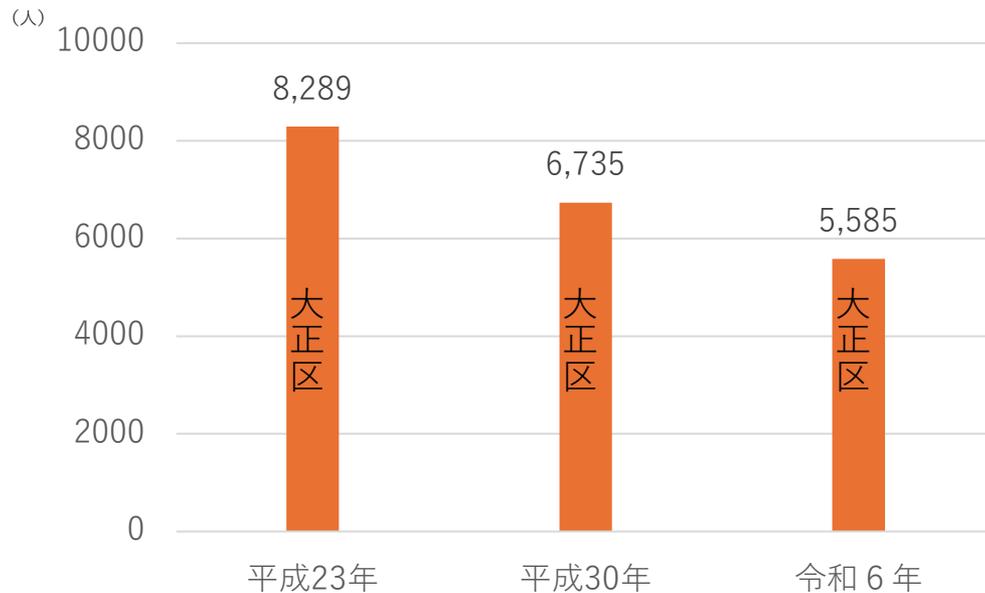
「大正区将来ビジョン2025」（こどもの未来が輝くまち）総括

※大正区第1回区政会議資料抜粋

施策	めざすべき将来像	めざすべき将来像の総括
② 未 来 を 生 き る 力 を 育 む 環 境 づ く り	生きる力を育み、こどもたちが様々な困難を乗り越え、社会の中で自立していける状態	<ul style="list-style-type: none">・居場所の設置数は地域において年々増加していますが、目標とする各小学校区にすべて設置されている状態に達していません。設置にあたっての課題解消のために必要な情報を提供するとともに、課題を把握してその解決に向けて関係機関とも連携することが必要です。・「こどもサポートネット事業」と連携して実施する「学習・登校サポート事業」では、生活困窮やネグレクト・不登校等により学習機会を逃した児童・生徒を対象に、学校・自宅などで学習支援や登校支援を行っています。また、不登校により支援につながりにくい中学生を対象に、学校や家庭以外の第三の「居場所」を区役所に設置し、専門のスタッフが一人ひとりに寄り添った支援を行っています。・不登校の傾向にある児童・生徒数は小学校・中学校においても増加傾向にあることから、引き続き「学習・登校サポート事業」による支援が必要と考えています。

大正区のごども・子育てを取り巻く状況と課題

① 児童数の推移（推計人口）



年	大正区	大阪市(参考)
H23	8,289人	307,028人
H30	6,735人	293,281人
R6	5,585人	279,152人

(大阪市 計画調整局「年齢別推計人口」より)

※児童数は各年10月1日時点の区内の0歳～14歳までの人数

・平成23年から令和6年までの大正区の児童数は、8,289人から5,585人と約3割減少している。

②児童虐待相談対応件数

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
こども相談センター	6,239件	6,136件	6,319件	6,293件
大阪市24区	3,601件	4,284件	1,654件	1,893件
大正区	80件	170件	80件	84件
児童（18歳未満）人口における児童虐待相談の割合（大阪市24区）	1.0%	1.1%	0.4%	0.54%
児童（18歳未満）人口における児童虐待相談の割合（大正区）	1.0%	2.0%	1.0%	1.1%

（大正区役所調べ）

- ・大正区の児童（18歳未満）人口における児童虐待相談の割合は、大阪市24区の割合と比べ高くなっている。

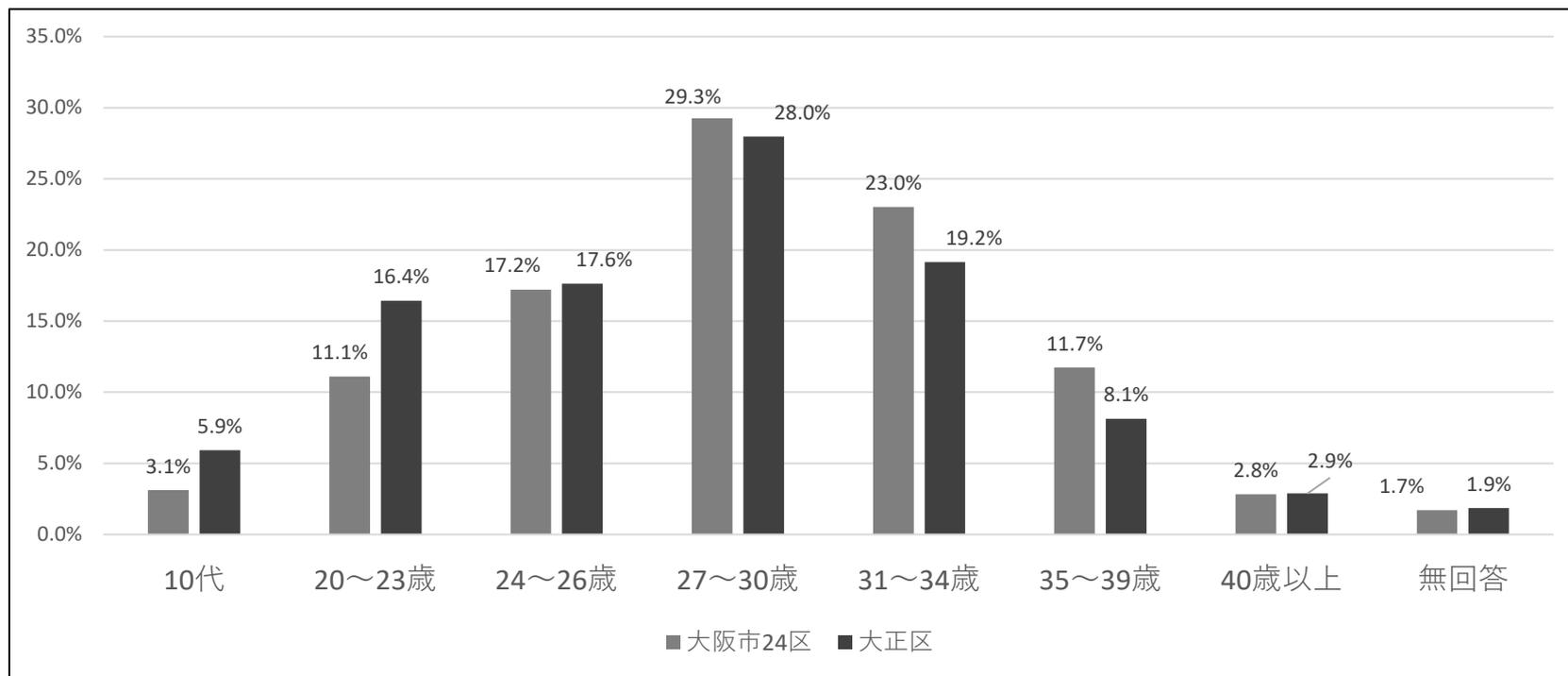
③虐待相談の対応をした児童の年齢内訳

令和5年度	大阪市	大正区
0～3歳	487件（26%）	27件（32%）
3～6歳	551件（29%）	30件（36%）
7～12歳	579件（31%）	22件（26%）
13～15歳	210件（11%）	4件（5%）
16歳以上	66件（3%）	1件（1%）

（大正区役所調べ）

- ・大正区の虐待相談に対応した児童（18歳未満）のうち、0歳～6歳までの乳幼児の割合は68%であり、大阪市の55%に比べ高くなっている。

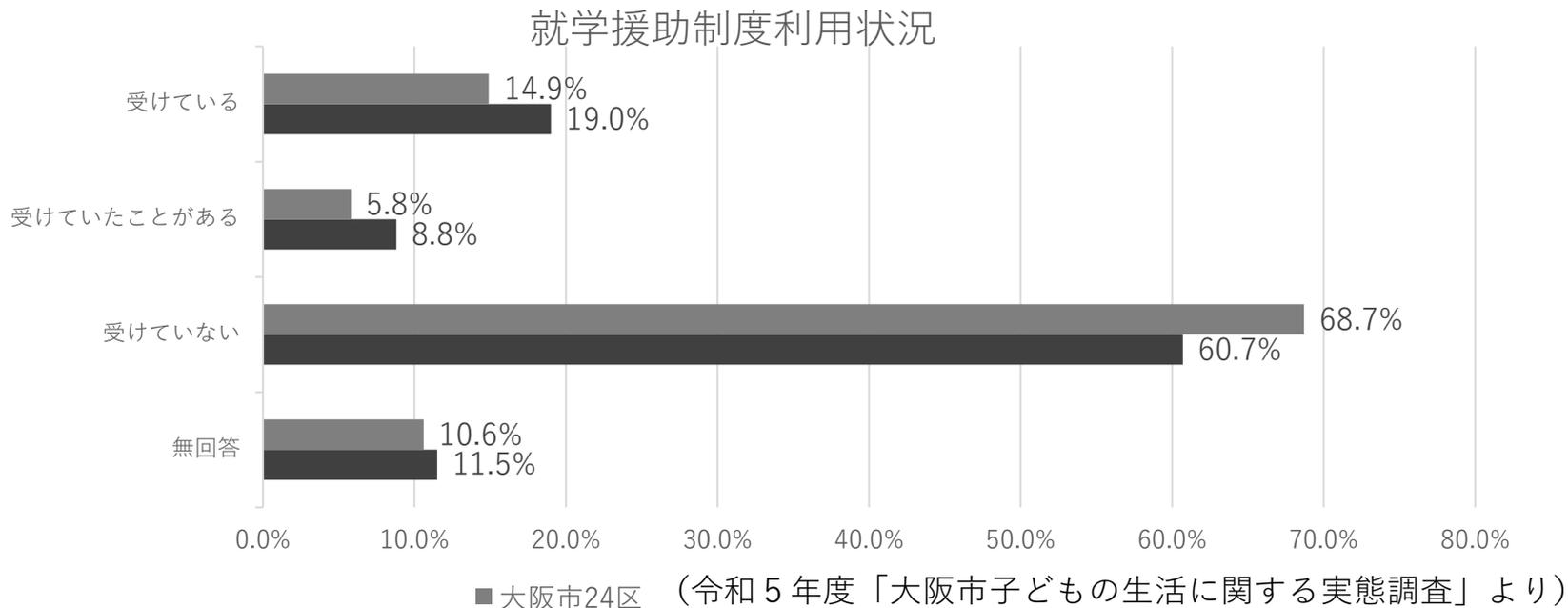
④初めて親となった年齢



(令和5年度「大阪市子どもの生活に関する実態調査」より)

- ・大正区の10代から23歳までに初めて親となった人の割合は、大阪市を上回っている。

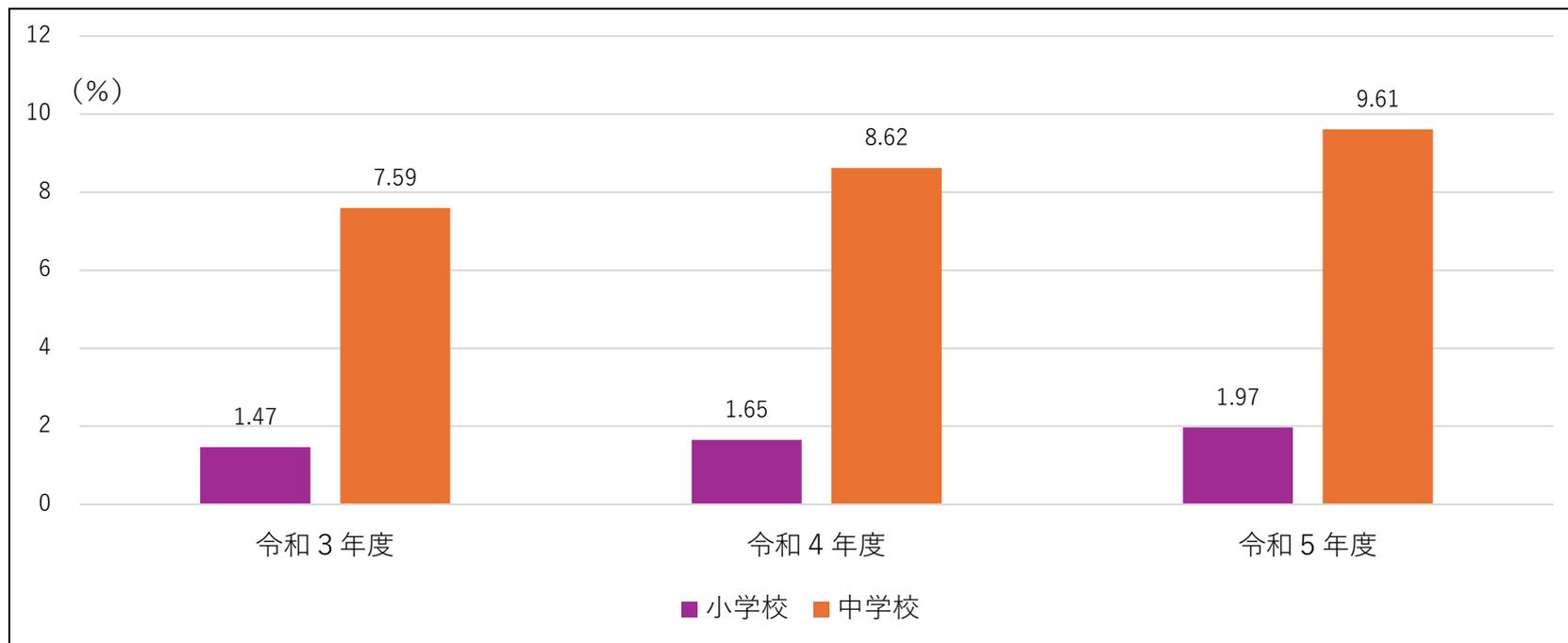
⑤就学援助制度の利用状況



※就学援助とは：経済的な理由により就学が困難な大阪市立小・中学校に通学される児童生徒の保護者に対して援助を行い、義務教育を受けることができるようにする制度

・大正区の就学援助制度を「受けている」、「受けていたことがある」と回答した保護者の割合は、大阪市を上回っている。

⑥大阪市立小・中学校における不登校の在籍比率の推移



(大阪市教育局事務局提供資料より作成(令和6年10月31日現在))

- ・令和5年度における大正区の児童(小学生)の不登校在籍比率については、大阪市を上回る小学校は10校中3校である。
- ・同じく生徒(中学生)については、大阪市を上回る中学校は4校中3校である。

⑦「将来の夢や目標を持っている」と肯定的な回答をした児童生徒の割合

	大阪市	全国
児童(小学生)	82.2%	82.4%
生徒(中学生)	63.1%	66.3%

文部科学省 全国学力・学習状況調査（令和6年度）

- ・大正区の「将来の夢や目標を持っている」と肯定的な回答をした児童（小学生）について、大阪市を上回る小学校は10校中4校である。
- ・同じく生徒（中学生）については、大阪市を上回る中学校は4校中1校である。

⑧授業時間以外での1日（平日）の勉強時間

小・中学校 全体				
	大正区		大阪市（24区）	
まったくしない	103人	17.5%	2,849人	11.6%
30分より少ない	112人	19.0%	4,357人	17.7%
30分～1時間未満	105人	17.8%	5,479人	22.3%
1時間～2時間未満	119人	20.2%	5,776人	23.5%
2時間～3時間未満	54人	9.2%	2,912人	11.8%
3時間以上	36人	6.1%	1,612人	6.5%
わからない	39人	6.6%	1,147人	4.7%
無回答	22人	3.7%	480人	2.0%

（令和5年度「大阪市子どもの生活に関する実態調査」より）

- ・大正区の「授業時間以外での1日の勉強時間」について、「まったくしない」と回答した児童（小学生）・生徒（中学生）の割合は大阪市と比べ高くなっている。

大正区の「こども・子育て」における課題

①安心して子育てできる環境づくり

- ・ 児童数の減少傾向
- ・ 児童虐待の相談対応件数が高水準で推移
- ・ 子育て中の保護者の孤立感や不安感の増大

など

②未来を生きる力を育む環境づくり

- ・ 不登校児童・生徒の増加
- ・ 将来の夢や目標を持っている児童生徒の割合が少ない。
- ・ 授業以外での1日の勉強時間が短い
- ・ 児童数の減少に伴う小学校の小規模化

など



今後、どう克服していくのか。